論文の和文要旨

論文題目	複文に用いられるテモラウの意味解釈 —複文の使役文、受身文と比較して—
氏名	呉　丹

本論文は、現代日本語におけるテモラウが複文構造に用いられる際に、その意味が使役的になるかそれとも受身的になるかを、複文における意味記述を通して考察するものである。例えば「太郎が花子に頼んで写真を撮ってもらった」という複文では、文中要素の「頼んで」からも分かるように、この文は、主語の「太郎」が動作主体の「花子」に「頼む」という依頼の働きかけをして、花子の動作「写真を撮る」を引き起こしてその動作から恩恵を受けているという意味（本研究でいう使役的な意味）を表している。この場合、恩恵のニュアンスの違いがあるが、使役文の「太郎が花子に頼んで写真を撮らせた」と同じ意味を表していると言える。また、例えば「そんなに褒めてもらうと嬉しいわ」という複文では、一般的に主語から動作主体への働きかけがなくて動作主体の一方的な動作「褒める」から恩恵を受けているという意味（本研究でいう受身的な意味）を表している。この場合は、受身文の「そんなに褒められると嬉しいわ」とほぼ同じ意味を表している。本論文では上記の例のような構造を含めた 4 種類の構造の複文を取り上げて、それらに用いられるテモラウの意味が使役的になるかそれとも受身的になるかを考察した。

テモラウ文は、一般的に恩恵の授受を表すという点においてテクレル・テヤルと共通性を持っており、これらの文と合わせて授受補助動詞文の範疇で論じられる。一方、ヴォイスの観点から見ると、テモラウ文は主語が動作主体ではないという点において使役文・受身文と類似する面もあるため、テモラウ文と使役文・受身文との関係性について論じられる研究もある。本論文では、授受補助動詞文の範疇ではなく、ヴォイスの範疇で考察を行った。そして、複文構造に用いられるテモラウの意味が使役的・受身的のどちらになるかを考察する際に、複文の使役文、受身文と比較して考察を行った。

テモラウが使役的な意味を表すかそれもと受身的な意味を表すかを論じる研究は多く見られる。しかしそれらの多くは文の構造が単文か複文かを問わず、動詞の性質や名詞の性質などの文中の要素に注目して考察している。本論文では、先行研究で指摘されている文中の要素も重要であると考えつつ、それ以外に、文の構造、つまり複文構造であることもテモラウの意味解釈に影響すると考え、4 種類の構造の複文を取り上げて、それぞれの

複文構造においてテモラウはどのような意味を表すかを考察した。

本論文では、テモラウが（a）テ形・連用中止形節複文の主節述語となる文「V-シ（テ）、V-テモラウ」、（b）テ形・連用中止形節の述語となる文「V-テモラッテ／テモライ、～」、（c）条件節の述語となる文「V-テモラウト／タラ／ナラ／バ、～」、（d）カラ／ノデ節の述語となる文「V-テモラウカラ／ノデ、～」を対象に考察を行った。分析方法としては、大規模コーパスを利用して収集した実例に基づいて実証的な分析を行った。本論文に用いられる用例は国立国語研究所で開発された「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（BCCWJ）から、検索アプリケーション「中納言」を利用して収集した。そして、テモラウの意味が使役的なのかそれとも受身的なのかの裏付けを探るために、テモラウの複文と類似する使役の複文・受身の複文についても比較の観点から考察を行った。

論文の本論である第 4 章から第 7 章で上記で挙げた 4 種類の複文を対象にそれぞれ考察を行った。以下では各章で明らかになったことを中心に述べる。

第 4 章ではテモラウがテ形・連用中止形節複文の主節述語となる文「V-シ（テ）、V-テモラウ」（「花子に頼んで写真を撮ってもらった」）を取り上げ、テ形・連用中止形節と主節の関係に注目して考察した。そして、その後に同じ構造をとる受身の複文「V-シ（テ）、V-（ラ）レル」をも実証的に分析し、更に先行研究に指摘のある使役の複文「V-シ（テ）、V-（サ）セル」と比較して三者の異同を明らかにした。「V-シ（テ）、V-テモラウ」構造のテモラウの複文では、従属節と主節の関係に注目してみると、従属節で主節事態実現のための状況を作り出すことを述べる場合（「花子に頼んで写真を撮ってもらった」）と、単なる時間的に先行する事態（「お茶を飲んで、その後服を買ってもらった」）や並列の事態（「部屋の掃除は自分でして、洗濯は母親にしてもらった」）を述べる場合がある。従属節で主節事態実現のための状況を作り出すことを述べる場合の方が全体の中で半分以上を占めることが分かった。そしてこの場合、主節のテモラウ文は与益者（ニ格項）の意志動作の引き起こし・実現を表すことから、このような構造におけるテモラウは使役的な意味を表すことが多いということが明らかになった。なお、同じ構造をとる使役・受身の複文「V-シ（テ）、V-（サ）セル」、「V-シ（テ）、V-（ラ）レル」と比較して、同じ観点から分析した結果、テモラウの複文が使役の複文とは似ているが、受身の複文とは大きく異なることが分かった。この構造の複文におけるテモラウの意味が使役的になることが多いということを裏付けた。

第 5 章ではテモラウがテ形・連用中止形節述語となる複文「V-テモラッテ／テモライ、～」（「カギを開けてもらって、部屋に入った」）を取り上げた。従属節と主節の関係に注目して、従属節で主節事態の実現のための準備動作について述べる場合（「カギを開けてもらって、部屋に入った」）とそうでない場合（「部屋の掃除は弟にやってもらって/やってもらい、洗濯は妹がやってくれた」）があり、そして前者の方が半分以上を占めている。

従属節事態が主節事態の実現のための準備動作である際に、テモラウはもっぱら使役的な意味を表し、そうでないときには、テモラウの意味は使役的になる場合と受身的になる場合、どちらとも言えない場合があることが分かった。また、同じ観点から同じ構造をとる使役、受身の複文と比較して考察した結果、使役の複文「V-（サ）セテ／（サ）セ、～」には、従属節事態が主節事態の実現のための準備動作という関係をなすものがあるのだが、受身の複文「V-（ラ）レテ／（ラ）レ、～」には存在しない。

第 6 章ではテモラウが条件節述語となる複文「V-テモラウト／タラ／ナラ／バ、～」（「そんなに褒めてもらうと嬉しいわ」）を取り上げた。条件節事態と主節事態の意味関係および主節事態の種類が出来事についての叙述であるかそれとも感情・評価の表現であるかに注目して考察した。その結果、主節事態が出来事についての叙述であり、そして条件節事態が主節事態の実現のための手段である場合（「お手伝いさんにやってもらえば、仕事に専念することができる」）、テモラウの意味は使役的な意味に偏ることが分かった。それに対して、条件節事態が主節事態の手段ではない場合（「先生に正解を教えてもらうと、びっくりして思わず「ええ！」と言った」）、テモラウの意味は複文の構造に影響されず、使役的になる場合と受身的になる場合、どちらともいえない場合がある。一方、主節事態が感情・評価の表現になり、そして条件節が仮定的である場合（「代わりにやってもらうと嬉しいです」）、テモラウにある使役的な性質と受身的な性質が薄まり、どちらであるか判断できないものが多い。この場合はテモラウの基本的な意味としての恩恵の授受が重要視される。また、条件節が確定的である場合（A：「料理がうまいね！」B：「そんなに褒めてもらうと嬉しいわ。」）は、テモラウが動作主体への働きかけがなく、一方的な動作から影響をうけるというように受身的に解釈され、もっぱら恩恵の享受の意味を表す。同じ構造をとる使役の複文「V-（サ）セルト／タラ／ナラ／バ、～」、受身の複文「V-（ラ）レルト／タラ／ナラ／バ、～」と比較して考察した結果、主節が出来事についての叙述である場合には、テモラウの複文はより使役の複文と似ている。一方、主節が感情・評価の表現である場合には、テモラウの複文はより受身の複文と似ている。

第 7 章ではテモラウが原因・理由節の述語となる複文「V-テモラウカラ／ノデ、～」（「来週あなたに出張に行ってもらうから、早めに準備してください」）を考察した。カラ／ノデの表す 3 つの意味に着目して分析した結果、次のことが分かった。カラ／ノデが可能条件提示の意味を表す際に、テモラウの意味が「V-テモラウカラ／ノデ、～」の構造に影響され、もっぱら使役的になる。カラ／ノデが（事態・行為の）原因・理由の意味と判断根拠の意味を表す際に、テモラウの意味が文の構造に影響されず、使役的になる場合と受身的になる場合、どちらとも言えない場合がある。そして、同じ構造の使役、受身の複文「V-（サ）セルカラ／ノデ、～」、「V-（ラ）レルカラ／ノデ、～」と比較して、次の異同があることが分かった。カラ／ノデの表す 3 つの意味のうち、（事態・行為の）原因・

理由と判断根拠の意味のタイプは三者に共に観察される。しかし、可能条件提示の意味を表すカラ／ノデ節があるかどうかという点において、テモラウの複文と使役の複文には存在するのだが、受身の複文には存在しない。このことから、カラ／ノデが可能条件提示の意味を表す際にテモラウの複文がより使役の複文に近くなることが言える。

以上の各章で考察した結果を、データを通して観察すると、次のことが分かった。考察した全てのテモラウの複文 2,258 の用例中、複文の構造に影響される文は 1,208 例あり、54%を占めている。つまり半分以上は複文の構造によってテモラウの意味が使役的になるかそれとも受身的になるかをはっきりと判断できるものである。そして、このような複文の構造に影響される文においてテモラウの意味がどうなるかを見ると、使役的な意味になるものは 1,208 用例中 1,176 例あり、その割合は 97%以上である。

これまでの研究では、テモラウの意味が使役的、受身的のうちのいずれになるかその要素・条件を探るに当たって、様々な要素・条件を見つけ出していると言えるが、それでも、判別できないものが依然として多く存在している。本研究で示した文の構造に着目するという観点、つまり複文構造において従属節と主節の関係に注目するという観点から考察すれば、これまでの研究でテモラウの意味が判断不可能なものが可能になるのではないかと考えられる。本研究で主張する複文の構造がテモラウの意味に影響するということは、まさにこれまでの研究で指摘されている「制限」や「要素」、「条件」のうちの重要な一つであると言える。